

# かいたく

教会のない地域に教会を 割り入れ場に働き人を



マケドニヤに着いたとき、私たちの身には少しの安らぎもなく、さまざまの苦しみに会って、外には戦い、うちには恐れがありました。しかし、気落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことによって、私たちを慰めてくださいました。

（IIコリント七章五～六節）

3月のフェローシップ総会において、任期満了によって委員を退任された三谷先生、井口先生に替わり、委員経験のある白井先生と若手の浜田献先生が加わり、新たな体制での委員会活動が始まりました。その最初の大きな活動は、昨年から行っている伝道所訪問ツアーでした。今回は5月に奈良県の葛城聖書バプテスト教会（高槻教会伝道所）を訪問させていただき、続きで関西方面の教会にも伺わせていただきました。この訪問が少しでも諸教会の励ましになればと願つて出かけますが、慰められ、学ばされるのは私たち委員の側です。

今の日本社会は忙しく、また人と人との関わり合うことに煩わしさを覚え、自己中心になっていますが、私たちは主のご命令にある通り、互いに愛し合い、励まし合い、理解し合い、仕え合っていきたいのです。

28年前、私が掛川で開拓伝道をはじめた時、集会出席者もわずかで、掛川には知り合いもなかったので、諸教会の先生や兄弟姉妹方が立ち寄つてくださることで慰めと励ましを受けました。

# 任期満了で退任されたお二人の先生からの提言

## 親身になつて心配する 者が必要



平塚BBC牧師 三谷 浩司

立てればという思いで引き受けさせていただきました。

私は「かいたく」と会計をおもに担当させていただきましたが、その働きを通して思われた国内宣教委員会の存在意義とは、開拓伝道中の先生方が孤立しないよう物心両面で支えることです。国内開拓伝道は海外宣教と比較すると、諸教会の関心度が低いことは否めません。

宣教師のように教会訪問をして祈りを要請する機会は滅多にありませんし、諸教会にレポートを送るにしても、経済的負担が大きいです。またサポート支援の面でも、海外宣教と違つて各個教会から直接行われるため、支援額にかなりの格差があるのが事実です。そのため、母教会と諸教会からのサポートにアルバイト収入を加えても、伝道費の捻出が難しかったり、生活がギリギリの状況に置かれることがあります。

しかし、私もあなたがたのことを知つて励ましを受けたいので、早くテモテをあなたがたのところに送りたいと、主イエスにあつて望んでいます。テモテのように私と同じ心になつて、眞実にあなたがたのことを心配している者は、ほかにだれもいないからです。

(ピリピ人への手紙二章一九（二〇節）

2005年のJBBF総会で国内宣教委員に初めて選出されてから、三期九年間ご奉仕させていただきました。当時の国内宣教委員会は委員長の上田晃先生を初めてとしてベテランの諸先生ばかりでなく、私などがと思いましたが、晃先生から開拓伝道を経験した若い先生方にぜひ加わって欲しいと言われ、こんな者でもフェローシップのために少しでもお役に

に親身になつて心配してくれる諸教会および国内宣教委員会の存在は大きな励ました。

これからも国内宣教委員会が諸教会の理解と大きな支援をいただいて、国内開拓伝道のサポーターとして大いに用いらされることを心より願っています。

## 神との交わりの中で 生きる者として

立川BBC牧師 井口 拓志



交わりの重要性は神と交わるものとして造られた人間としての定めであり、なくてはならないものです。「伝道」においても例外ではないことを教えられます。イエスの伝道を見ると、イエスの弟子になった者たちへの伝道（ヨハネ一章）、ニコデモへの伝道（ヨハネ四章）など、深い交わりの中で伝道しています。

そのためイエスは伝道する相手のところへ積極的に出て行つておられたようです。「それから、イエスは、すべての町や村を巡つて：福音を宣べ伝え：」（マタイ九章三五節）。自分自身、福音を口にしますが、愛するべき対象のところに行き、語ることは正直少ないです。神との交わりの中で生きることがゆるされる

いる者として、イエスがなさつたとおりの伝道をしていきたいと願っています。また、私が励まされたように、福音宣教の働きを共有する同僚者との交わりがあたり、これまでの恵みを思い起こしていたのですが、委員として働いていた頃以上に、自分が委員会から支援を受けた頃が思い出されてなりませんでした。とりわけ委員会主催の年一回の集いに至るための支援が今後ともなされていくことを願っています。

出深いものがあります。宣教に携わる先生方と直接触れる人格的な交わりは、他に変えがたいあり難さがありました。委員の立場になつてからも、その願いと課題は、開拓の一線で働いておられる先生方と直接交わり、語り合う場の提供といふことでした。

交わりの重要性は神と交わるものとして造られた人間としての定めであり、なくてはならないものです。「伝道」においても例外ではないことを教えられます。イエスの弟子になった者たちへの伝道（ヨハネ一章）、ニコデモへの伝道（ヨハネ四章）など、深い交わりの中で伝道しています。

そのためイエスは伝道する相手のところへ積極的に出て行つておられたようです。「それから、イエスは、すべての町や村を巡つて：福音を宣べ伝え：」（マタイ九章三五節）。自分自身、福音を口にしますが、愛するべき対象のところに行き、語ることは正直少ないです。神との交わりの中で生きることがゆるされる

いる者として、イエスがなさつたとおりの伝道をしていきたいと願っています。また、私が励まされたように、福音宣教の働きを共有する同僚者との交わりがあたり、これまでの恵みを思い起こしていたのですが、委員として働いていた頃以上に、自分が委員会から支援を受けた頃が思い出されてなりませんでした。とりわけ委員会主催の年一回の集いに至るための支援が今後ともなされていくことを願っています。



# 献堂式を迎えて

浅間聖書バプテスト教会 牧師 入江 義雄

私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。  
私の助けは、天地を造られた主から来る。(詩篇121篇1~2節)



浅間教会の外観

今まで、いつも神様はご自身の御力を御言葉によって現して下さいました。キリストが神の御子として地上にご降誕され、全人類の罪の身代わりとして十字架で死なれ、葬られ、三日目に勝利の復活を成し遂げられたことを信じる人々がこの御代田町に与えられていることは大きな喜びです。

私たちは、この2014年3月21日に献堂式を迎えることができると、とても想像することができませんでした。キャンプ場を借用させて頂き、できるだけ早く次の世代に継承できる土地と建物を

裏には「2002年8月4日御代田への赴任を記念して佐倉聖書バプテスト教会より」と記されています。御代田へ遣わされて12年目を迎えていることを覚えると、神様の深い憐れみと恵みが深く注がれていることを痛感させられます。当初、ラージヤス宣教師の留守に招かれ、御代田キャンプ場で3~4名の礼拝が捧げられていました。その時、そびえたつ浅間山を眺め、信州の山々に圧倒されたことを思い出します。今では当たり前に眺めている浅間山ですが、改めて天地を創られた偉大な神の御業を味わうことができるとの感動が胸に湧いてきました。

今日まで、いつも神様はご自身の御力を御言葉によって現して下さいました。キリストが神の御子として地上にご降誕され、全人類の罪の身代わりとして十字架で死なれ、葬られ、三日目に勝利の復活を成し遂げられたことを信じる人々がこの御代田町に与えられていることは大きな喜びです。

この記念すべき献堂式を迎えるにあたり、いつも私たちを祈り支えて下さった佐倉聖書バプテスト教会、調布バプテスト・テンプル、すずらん聖書バプテスト教会の皆様、そして諸教会の皆様に心から感謝申し上げます。皆様の尊いサポートと祈り、御言葉に基づく交わりがなければ、私たちは今日を迎えることはできませんでした。まだ新たな歩みをはじめたばかりの私たちですが、キリストのご栄光のために、共に祈り、共に御言葉によつて励まし合えることを心から祈り

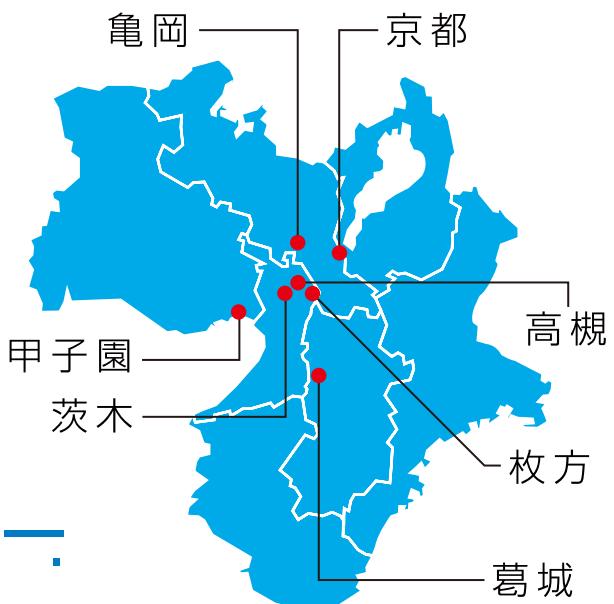
祈つてきましたが、神様は私たちの祈りの中でも注がれました。どんな時にも神を見上げて歩む尊さを教えて下さいました。そして、これから的新しい時代の節目として、私たちは御代田聖書バプテスト教会から浅間聖書バプテスト教会へと第一歩を迎えることになりました。私たちが、新会堂で満足するのではなく主の御前に謙り、更なる宣教の拡大に向かって歩めることを願っています。



吹き抜けになっている礼拝堂

# 国内宣教委員　白井　清之

## 関西地区教会訪問記



### 初めに

国内宣教委員会では、5月12～13日の二日間の日程で、関西地区の六つの教会を訪問させて頂きましたので、この紙面を借りてご報告致します。

委員会による諸教会の訪問は、昨年の長野新潟方面への訪問に続き二回目となります。今回は、JBBF総会に於ける委員の改選により、榎本委員長、加治佐師、徳田師の他に浜田獻師と白井が加わり、新体制での訪問となりました。（徳田師は当日、体調不良のため欠席されました）

委員の多くは、関西地区の教会を訪ねるのが初めてという事情もあり、その訪問と交わりが、とても新鮮で興味深い経験となりました。私たち四名の委員は、当日、米原で合流して関西に向かいましたが、訪問した順にその交わりの様子を書き記します。

### 一・葛城聖書バプテスト教会

葛城教会では、森善男師、幸子師、それに、デニーン・エイカーズ宣教師が、私たちを温かく迎えて下さいました。教会は、森先生ご夫妻の自宅マンションを集会所としておられ、二階のマンションの玄関前には、小さな教会の看板と日曜学校の案内が掲げられていました。

私たちは、応接室に通され、そこで交

わりましたが、通常は、そこが主の日の礼拝場所となるそうです。まずは、森先

生が、葛城教会の伝道の経緯とご自身の証しをされ、現在の伝道の状況を報告し

て下さいました。特に、先生は、神学校を卒業した後、一旦、伝道の一線を退か

れ、30近くブランクを経た後に、再び教会に導かれ、高槻教会の遠隔地伝道と

して家庭集会を行うようになり、後に先

生ご自身が伝道者として復帰して、高槻

教会の伝道所として開所されたことをお

聞きしました。私たちは、その証しを聞

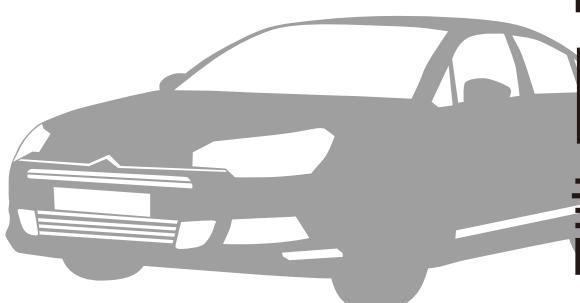
いた時、主の計り知れない憐みと摂理の

御業に深い感動を覚えました。また、先生の証しから、日本で最も古い歴史と文化の都で、日本仏教の黎明期に建てられた由緒ある寺院など、他の地域とは比較できないほどに福音宣教の厳しい地であることを実感しました。そのような宗教的事情により、一般家庭も、教会や日曜学校に対して、かなり強い警戒感を抱いていることも知ることができました。

しかし、そんな厳しい状況の中でも、確かに、私たちが訪ねたその部屋には福音の香りが漂い、救いの希望に満ち、そして、聖霊の確かな実在と、福音宣教を通して働く生きた神の御業を知ることができました。主の憐みの御業が、先生ご夫妻にあつたように、この地に住む多くの方々にも、同じ主の恵みがあることを祈りつつ、私たちは、葛城の地を後にしました。



デニーン・エイカーズ宣教師と幸子師  
玄関前には小さな教会の看板が掲げられている





## 四・茨木聖書バプテスト教会

教会訪問の二日目になりますが、亀岡から茨木教会に向かうことになり、茨木教会では、ボブ・パイエット宣教師と大越伝道師夫妻が、私たちを迎えてくれました。

教会の建物は、閑静な住宅街の中ある和風住宅ですが、玄関で靴を脱ぐことなくそのまま中に入れる洋式にしておられました。

私たちは、パイエット宣教師との交わりの中で、先生ご自身の生い立ちから日本宣教に至るまでの経緯をお聞きし、先生ご夫妻が、日本の宣教のために長きに渡り、地道に伝道して来られたその忍耐や日本人への愛を感じることができます。

サンディー夫人は、翌日の婦人集会の準備の為にお会いできませんでしたが、言葉や文化の壁を越えてキリストの愛をお伝えしようとする先生ご夫妻の情熱を知ることが出来ました。

また、私たちを迎えて下さった大越聰先生ご夫妻は、茨木教会の協力伝道者として働いておらますが、奥様のひとみ師は、茨木教会の開拓伝道初期に導かれ、パイエット宣教師夫妻と共に歩んで来られた方です。また、大越先生も、教会の宣教の働きの中で献身され、ご夫妻が、共に教会に仕えておられる姿を見てそれはパイエット宣教師にとつても、大きな慰めと力となっていることを知ることができました。

また、大越先生は、ご自身が精神的な障がいを負っておられ、そのハンディーを抱えつつ伝道者としての働きを担つておられます、そのご夫妻の祈りによる

のでしょうか、今、教会には同じ障がいを抱えた多くの方々が、自宅から、或いは病院から直接に礼拝に来られていることをお聞きしました。そこにも主の深い摂理と、先生ご夫妻が、そこで仕えておられた意味を覚えることが出来ました。

次に、私たちは、枚方聖書バプテスト教会にも伺う予定でしたが、枚方教会の當麻先生とは日程の調整が付かず、残念ながら今回は、お会いすることが叶いませんでした。



茨木教会

## 五・甲子園聖書バプテスト教会

次に、私たちは、昼食の後に、甲子園聖書バプテスト教会に伺いました。甲子園教会は、その名通り阪神甲子園球場のすぐ近くにあり、甲子園球場への来場者は、団体バスを降りて、駐車場から教

会の前を通って球場に向かうそうです。  
球場前のローソンは、通常の青い横縞のストライプではなく、黄色と黒の横縞すなわちタイガースのトレードマークになつており、周辺地域は、タイガース一色の状態でした。また、教会周辺と町全体は、洗練された都会的で明るい雰囲気の中にあり、私たちが教会を訪ねた時は長年教会に仕えて来られた年輩の婦人たちが丁度午前の婦人集会を終えて散会するところでした。

教会は、現在、大原先生が牧師として仕えておられます、がこれまでの甲子園教会の歴史の中、牧師や伝道者が何人か代わって来た経緯もあり、先生ご自身も就任4年目にして、ようやく信徒と信頼関係が築けるようなつたことを証されています。

交わりの中で先生ご自身が良く使われた「これから…」という言葉に象徴されるように、期待と祈りの中で、靈的に信徒を導いて行こうとされる先生方の指導者としての姿勢を伺う事ができました。また、会堂は、十数年前に増築したことにより、以前に比べてかなり広くなり、若い先生ご

夫妻の賜物を生かして、そこに近所の子どもたちが良く集うようになられていることもお聞きし、それも先生ご夫妻が就任されたことによって与えられた教会の恵みの一つなのでしょう。

現在、男性が少ないことが祈りの課題の一つだそうですが、その中でも一人の青年の兄弟が、導かれていることをお聞きしました。そのように、先生ご夫妻が教会の働きを明るく証しえている様子を拝見して、私たちは、先生ご夫妻の伝道者としての将来や教会の歩みに、とても明るい希望を見る思いが致しました。



甲子園教会



# 六、京都聖書バプテス教会

最後に、私たちは、京都聖書バプテス教会をお訪ねしました。

京都教会は、戦後間もない頃に私たちの群れに加わり、フェローシップの中では、伝統と歴史のある教会であり、前任牧師は、既に召された近松三郎先生で、現在は、そのご子息である近松満先生が跡を引き継いでおられます。

そのような事情から、京都教会は、高槻教会と並んで、関西地区の交わりの中にあり、会堂のフェローシップルームには、関西地区的恒例行事である新年聖会の毎年ごとの集合写真が額に入れられて飾っていました。その写真を見る時に、関西地区的交わりと絆の強さを感じました。

また、私たちは、二階の礼拝堂に案内されました。会堂は、やはり京都教会の歴史を感じさせる厳かさと聖さがあり、そこは、前任の近松牧師より引き継がれた宣教への情熱を感じさせるものでした。

また、京都は、先の大河ドラマで放送された新島襄の宣教の拠点でもあります。京都は、京都の最も古い歴史と伝統の都において、私たちは、その地での伝道の困難さを予想しましたが、近松先生は「それはどこでも同じでしょう。」と淡々と答えられ、特別その地を意識した宣教の気負いを感じさせず、ただ、どこでも、また、誰に対しても変わることのない



京都教会



現在の旧会堂の様子（ツタに覆われている部分）

福音を語ろうとされる先生の宣教に対する一途さを感じ取ることができました。

また、数年前から、近松満先生は、前列腺腫瘍マーカーの数値が高く、心配な事が続きましたが、現在はマーカーの数値も低い位置で安定しているとのことで安心致しました。また、先生は、私たちも癌検診を受けることを勧めて下さり、私達の健康も気遣つて下さいました。

更に、近松先生は、その交わりの中でご家族や他の教会に行かれている兄弟姉妹のことを心細やかに気遣つておられ、群れの良き牧者としての姿を見させて頂きました。私達は、楽しい交わりの時を惜しみつつ、京都の地からそれぞれの家路に着きました。

以上、関西諸教会の訪問記ですが、その内容は、至つて主観的な雰囲に基づくもので、それぞれの教会について、ほんの一部分を報告したに過ぎません。ですから、各教会には、この訪問記では知り得ない、数多くの御苦労や背景がある事も承知しています。

また、これは、限られた交わりの時間の中での感想と報告ですので、関係する先生方の本来の趣旨や意図に合わない文言がありましたらお赦し下さい。

それでも、私たちが今回の訪問で感じたことは、実際に教会に行って、見てみないと分からぬことや知り得ないことが多くあるということでした。私自身が委員会の訪問という公の機会を通して、このような交わりの恵みに預かれたことを心から感謝するものです。

私たちには、この恵みを諸教会の方々と共に分かち合うことができたらと思い、稚拙な文草ですが訪問記を記しました。また、手前味噌ながら、この訪問の緻密な計画を立て、常に交わりの中心に居て下さったのは、委員長の榎本師であることも書き添えておきます。

委員会としては、これからも国内宣教の交わりの為に諸教会との絆となり、国内宣教の働きのために貢献して行きたいと願っておりますので、是非、国内宣教の働きためにご支援を宜しくお願ひ致します。

枚方教会は當麻先生がバプテス女子聖書神学院の授業のため都合が合わず伺うことが出来ませんでした。

# 終わりに



# 2015年 国内宣教カンファレンスのご案内



- ◎開催日:2015年1月5日(月)~6日(火) + 7日(水)
- ◎説教者:近松満先生(京都聖書バプテスト教会)
- ◎テーマ:「開拓からの教会形成」(仮)
- ◎参加費&交通費:一泊4000円の見積もりですが、ご家族を含めて可能な限りの補助金支援を検討しています。お気軽に委員会へご相談ください。
- ◎申し込み案内時期:今年11月初旬

- 1** 婦人たちの集会を企画しています。牧師夫人、婦人伝道師の方もぜひ参加をご予定ください。
- 2** 開拓伝道の先生だけではなく、ぜひ独立教会の先生方、ご家族もご参加ください。
- 3** 全額補助実現のために、皆様からの献金をお願い致します。目標額50万円。10月末まで。「カンファレンス指定」とご指定ください。

**【献金先:郵便振替】**

JBBF国内宣教委員会 00140-2-654375

スケジュール(仮=目安です)		
1月5日(月)	1月6日(火)	1月7日(水)
	全体集会	子供集会
	分科会	
	婦人集会	男性子守
8:00		
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00	全体集会	子供集会
15:00		全体集会
16:00	婦人集会	男性子守
17:00		
18:00		
19:00	全体集会	子供集会
20:00		交わり会
21:00		

フリー

## 国内宣教委員会 広報物のご案内



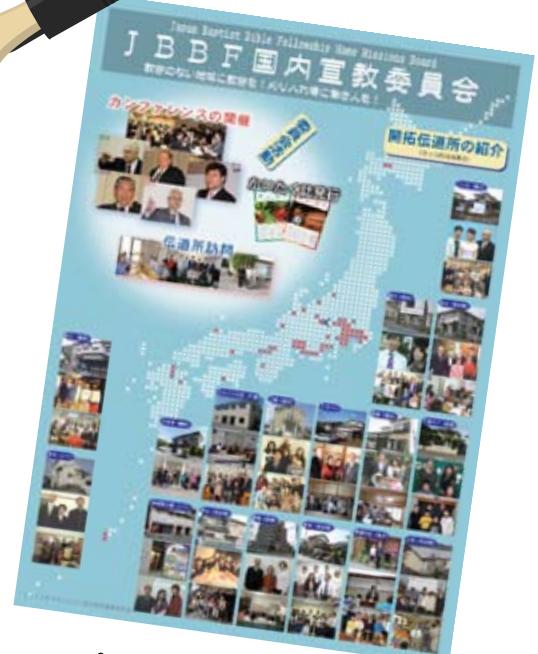
スマホの方はこちら



### ■ ホームページ

国内宣教委員会の行事予定や活動報告、機関誌「かいたく」のバックナンバーなどを掲載しています。

<http://jbbfhomemission.web.fc2.com/>



### ■ ポスター

左のホームページからダウンロードできます。また、全国聖会で希望者にプレゼントします。国内の開拓伝道所のことを覚えてお祈りください。

00140-2-654375	献金振込先 (郵便振込)
J B B F 国内宣教委員会	